

荒井猫田遺跡は、中世の町並みがよくわかる遺跡です。現在のビックパレットふくしまとその周辺に位置しており、鎌倉時代の町跡や室町時代の館跡が見つかっています。

ここでは、当時使われていた井戸が多数確認されましたが、その1つからは絶滅してしまったニホンオオカミの全身骨格が出土しました。日本では当時3番目の出土例で、生物学的に見ても非常に貴重なものです。



ニホンオオカミの骨

この井戸跡から出土しました!



主郭に伴う建物跡
→柱跡がたくさん見えます



こどもの骨

荒井猫田遺跡からは、こどもの骨も見つかっています。頭蓋骨を中心に、腕の骨や足の骨も残っていました。オオカミの骨と同じく、井戸跡から出土しています。井戸の中から人骨が見つかることはとても珍しいことです。誤って井戸へ落ちてしまったのか、何か意味を含めて埋められたのか、解釈の難しいところです。

新型コロナウイルス感染症 拡大予防のお願い

大安場史跡公園のご利用にあたっては、「新しい生活様式」を踏まえ、感染拡大防止のご協力をお願いいたします。

- (1) 人との間隔をあげ、身体的距離の確保をお願いいたします。
- (2) 「マスクの着用」と「咳エチケット」をお願いいたします。
- (3) こまめな「手洗い」や「手指消毒」をお願いいたします。
- (4) 当日は検温をし、ワクチン接種後であっても、次の症状のあるお客様のご来園はご遠慮ください。

- ・当日を含め2週間以内に発熱(受診や服薬等により解熱している場合を含む)
- ・呼吸器症状(咳・くしゃみ等)がある方や具合の悪い方
- ・感染拡大している地域や国への訪問歴が14日以内にある方

大安場史跡公園

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所:福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地
電話:024-965-1088 FAX:024-965-1090
Mail:oyasuba@bunka-manabi.or.jp
休館日:月曜日(月曜日が祝日の時はその翌日)
※公園は年中無休です。

ウェブサイトも
チェック!

大安場史跡公園 検索



発行:令和3年12月31日

紙へリサイクル可
この紙はFSC®認証紙です。



まるさんかくしかく

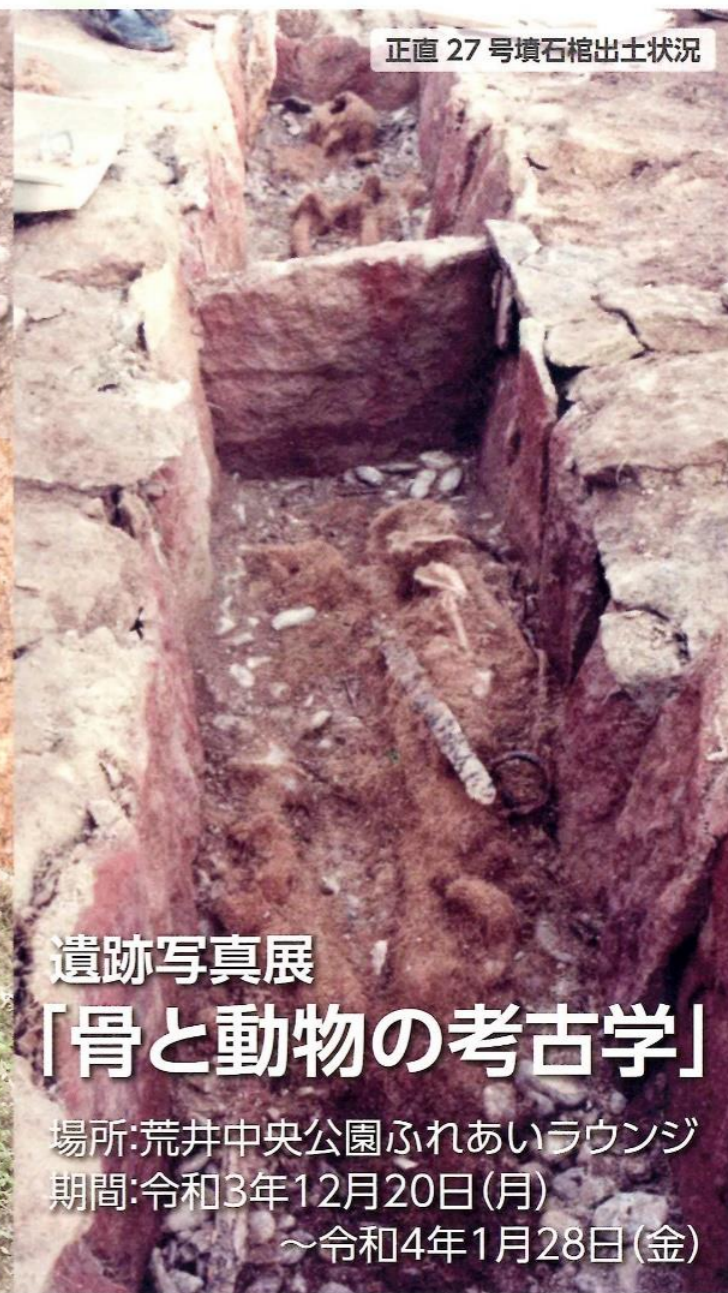
タイトルはまるい石劔、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。



大根畑遺跡出土人骨



荒井猫田遺跡出土
ニホンオオカミ全身骨格



正直 27号墳石棺出土状況



大善寺古墳群 石棺石材

遺跡写真展 「骨と動物の考古学」

場所:荒井中央公園ふれあいラウンジ
期間:令和3年12月20日(月)
~令和4年1月28日(金)

令和3年12月20日(月)より、荒井中央公園ふれあいラウンジで「遺跡写真展」を開催いたします。日本は動物の骨が残りにくい酸性土壌が広く分布していますが、市内でも運よく骨が出土した遺跡があります。今回は「骨と動物の考古学」と題し、人や動物の痕跡が見つかった市内の遺跡に注目しました。

発掘調査の成果は報告書としてまとめられることが一般的ですが、今回はまだ報告書としてまとめられていない遺跡についても触れています。この機会にぜひご覧ください。

だいこんばたけ いせき
大根畑遺跡

大根畑遺跡は、安積北井二丁目(旧安積町荒井字大根畑)に所在します。古墳時代の集落を中心とする遺跡で、出土した土器は市内の同時代の土器を研究するうえで、欠かせない資料となっています。

また、あまり知られてはいませんが、ここでは古墳時代の住居が埋没した後に掘られた穴から、人の足の骨や頭蓋骨が出土しています。周辺には、江戸時代までさかのぼれるお墓があることから、この人骨も同じ時代に埋められ、忘れられてしまったのかもしれない。



大根畑遺跡発掘状況



大根畑遺跡出土人骨

骨と病

骨から当時の病気やケガなどがわかる場合があります。大根畑遺跡から見つかった頭蓋骨からは、虫歯の状況がわかりました。報告書の分析結果には「歯の脱落后も治癒することなく、死亡時まで化膿性の炎症を起こしていたと考えられる」と記されており、ひどい虫歯や炎症に悩まされていたようです。

別の遺跡からは、骨折の跡や関節炎の跡、さらにポリオによって手足の発達に障害が残った跡など、様々な病気やケガの痕跡がわかる骨が見つっています。

正直古墳群



正直 27号墳
出土人骨

頭蓋骨と朱

正直27号墳では、3人分の骨が見つっています。頭蓋骨は、全て赤く塗られていました。これは水銀朱と呼ばれる赤い顔料です。人骨が見つかった石棺も、同じように赤く塗られていました。赤い色は魔除けとしてよく使われます。埋葬された人物を、悪いものから守る役目があったのでしょうか。

喜多方市の灰塚山古墳から出土した例を見ると、石棺にはベンガラが、骨にはより貴重な水銀朱が使われており、顔料の使い分けがされていたことがわかります。正直古墳の石棺に塗られた顔料はまだ調査がされていませんが、同じように使い分けがされていた可能性があります。

鹿の角と飾り

古墳の出土品として、剣の装具など、鹿の角をつかったものが稀に見られます。また、古くから鹿の骨は占いに使われていました。動物の中でも鹿は、昔の人々にとって身近な存在であると同時に、特別な力を持つ神聖なものと考えられていたようです。

正直27号墳から見つかった鹿角製の剣の装具は、朱も塗られています。鹿の角は毎年生え変わるので、再生や子孫繁栄の意味が込められていたのではないかと考えられます。



正直 27号墳出土鹿角装具

しょうじき こみんぐん だいぜんじ こみんぐん
正直古墳群と大善寺古墳群

正直古墳群は、田村町正直に所在します。前方後方墳・方墳・円墳など、すでに失われた古墳も含めてこれまでに43基見つっています。

大善寺古墳群は、田村町大善寺地区に所在します。開墾によって多くが破壊されてしまいましたが、石棺が見つっています。

位置関係に注目すると、大善寺古墳群は正直古墳群から見て谷田川を挟んだ対岸の高台に位置しています。比較的大きな川を挟んでいるので、正直古墳群を作った集団とはまた別の集団が、同じ時期に存在していたことが推定されます。両岸で古墳づくりを競い合っていたのかもしれない。



大善寺地区より正直古墳群を望む

大善寺古墳群



神明神社古墳



壙輪出土状況

こつぞく
骨鏃

骨鏃とは、骨で作った矢じりです。大善寺古墳群から見つかったものは、鉄鏃の形をまねて、鹿の骨で作られたものです。関東・東北地方で見つかる骨鏃は、小さな段を持つのが特徴です。古墳時代中期～後期前半と考えられるものは形が様々ですが、6世紀後半以降のものはほぼ形が一定になっていくことが指摘されています。

鹿の骨がどのような意味をもっていたのかはまだ分かっていませんが、実際に矢の先端として使える、十分な強度があったようです。

しんめい
神明神社古墳

市内の古墳では数少ない、円筒壙輪を持つ古墳の1つです。この円筒壙輪は、口縁部のすぐ下に突帯を持つもので、県内では大玉村谷地古墳、国見町国見八幡塚古墳、本宮市天王壇古墳などで見つっています。

壙輪が持ち運ばれたのか、作り手が移動したのか、明確にできませんが、この壙輪の場合は作り手が移動して製作したものと考えられています。



大善寺古墳群出土骨鏃